



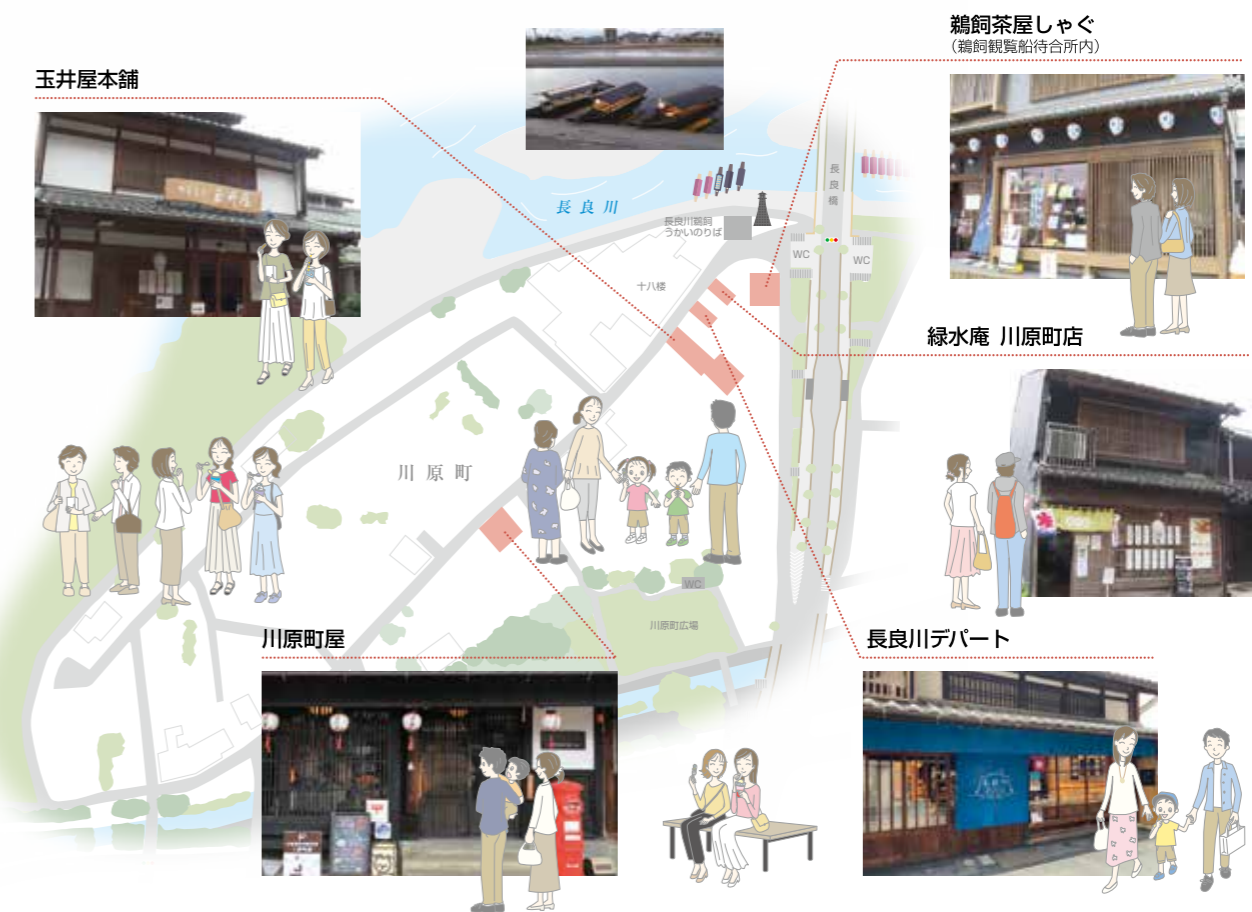
川原町×岐阜商工会議所

月に一度の「限定イベント」による ウイズコロナ・アフターコロナの新たな観光振興策

かわらまちの日

行こう

毎月第3土曜日は 川原町へGo!



に取り組んできました。また岐阜市では、長良川の歴史や文化・景観を生かし、魅力的な水辺空間の形成に向けた「ぎふ長良川鶴飼かわまちづくり計画」が策定され、計画の対象地域である「ぎふ長良川の鶴飼」が行われる「観覧船運航エリア」、「川原町エリア」を1000年先も継承し続ける持続可能な地域とすることを目指した新たな取り組みがはじまっています。

このような流れから、当所ではウイズコロナ、アフターコロナに向けた岐阜市の観光振興支援策を模索しはじめ、その中で、重要な観光資源である川原町にその起爆剤となるようなイベントを何か興したいと考え、川原町において明治41年創業の老舗和菓子店 (株)玉井屋本舗 代表社員の玉井博祐さんに相談しました。

すると「川原町ににぎわいを取り戻すきっかけにできれば」と、当所の想いに即答で賛同いただき、二人三脚で考えを巡らせていくこととなりました。

限定イベント「つきいちほじまる このまちを盛り上げたい」

イベントの開催を目指し、参考にあがったのが三重県の「赤福」の「朔日餅」のような「毎月一度の限定企画」でした。

玉井屋本舗では、百貨店での催事の経験はあるものの、このようなイベントを川原町で行うことは、もちろんはじめてでした。皆で限定企画をさまざまに考える中で、主軸には2つの柱を掲げることにしました。ひとつは

店頭での実演「手焼き鮎菓子」。そしてもうひとつは「新商品」。毎月、旬の素材を使った新たなテイストの和菓子が当日限定で登場します。

工場では、毎日新商品完成に向けて試作が繰り返され、店頭での手焼きの練習も重ねられました。宣伝方法も手探りで、まずは周辺の方々へ、社員総出でチラシを配りました。SNSでの発信、もちろん店頭でお客様への事前チラシ配布も前日まで取り組みました。

そして、いよいよ今年3月、第3土曜日の19日に、月に一度のイベント「つきいち」がはじまりました。

「おかげさまで、販売前から行列ができ、お待ちの間も職人の実演を撮影される方や、お子様を抱き上げて見せてくださる方など、多くの皆様にとっても興味をもっていただくことができました。何より、お客様から直に「美味い」などの声を聞くことができ、とても嬉しかったです」と、玉井さんは当日を振り返ります。

コロナ禍で、観光客が激減した川原町に、この日は多くの方々の笑顔が溢れました。

そんな玉井屋本舗の取り組みに、近隣の店舗が次々と賛同し、参加したいとの声が集まってきました。それを受け、まもなくして第3土曜日は「かわらまちの日」として、動き出しました。

第3土曜日は「かわらまちの日」 地域一体で岐阜の魅力発信

いの一番に参加の名乗りを上げたのは、緑水庵川原町店 店主の藤吉里美さんです。

岐阜市川原町エリア。長良橋から西へ。湊町、玉井町、元浜町など、かつて川湊として栄えた歴史を映した町名で構成されたこのエリアは、遡れば織田信長の時代から多くの商人らの交易の場でした。江戸時代には、奥美濃から木材や美濃和紙が、長良川の水運を活用してこの湊に運ばれ、川原町は問屋町として隆盛しました。

時を経た今も、川原町には古の面影のある格子戸や黒壁が印象的に、風情のある佇まいを醸し出しています。

そこには、100年以上続く旅館や和菓子店、土産店などの老舗とともに、町家や蔵を生かしたモダンな店舗が次々登場するなど新しい魅力も加わり、今や多くの観光客で賑わう岐阜市を代表する観光地となっています。

しかし、そんな川原町エリアも、多くの他の観光地同様コロナ禍の打撃は深刻です。

そのなかで今、このまちでアフターコロナの観光振興策としての新たな取り組みが動き出しました。

その名も「かわらまちの日」。

毎月第3土曜日、その日「限定」のスイーツなどが楽しめる地域一体となったイベントがはじまりました。

川原町ににぎわいを

きっかけは、当所の「川原町エリア」観光振興事業としての取り組みでした。

当所では、これまでに継続して「清流長良川」に育まれてきた地域資源を活用した魅力ある観光振興「長良川ブランド」事業に積極的

「川原町というまちの魅力に惹かれ、6年前にここにお店を出させていただきました。岐阜の魅力は、ふらっとリフレッシュしたいなという方が「ここに来たら元気になれる」といった『第二の故郷』のようなところかと思えます。川原町で、そんな方々が訪れたいくなるようなイベントを、地域一体となって出来たいなと思っています。今回『かわらまちの日』に参加することができて本当に嬉しいです。これからもずっと続けていきたいです」

藤吉さんは「毎月新たな商品を考えるのが楽しみ」だと笑顔で語ります。「かわらまちの日」への想いは膨らむばかりです。

参加店舗はその後も増え、現在、5店舗が限定商品の販売やワークショップを各店で開催しています。

「かわらまちの日」という新たなエッセンスが加わり、かつてのにぎわいを徐々に取り戻しつつある川原町。

清流長良川に育まれてきたこのまちは、今も昔もこれからも、長良川とともに特別な趣を彩り続けます。



「かわらまち」でお待ちしています。
(左)玉井屋本舗 玉井博祐さん、(中央)当所常務理事 河尻満、(右)緑水庵川原町店 藤吉里美さん